



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

彦根東高校新聞部が発行する速報新聞「キマグレ」が今回第1500号となった。これを記念してキマグレとは何かを振り返る。

キマグレの歴史は15年

号数を数えて本格的に速報新聞「キマグレ」を発行し始めたのは平成14年からだ。それまでも部活動の大会の結果をまとめた速報は発行していたそうだが、せっかくなら名前を付けようということになり「キマグレ」という名前が命

名された。「キマグレ」という名前は、当時の速報新聞が定期的に発行されることがなかったことにちなんで命名された。そのため発行部数が増加してからは「キマジメ」に名前を変更するという意見も挙がったそう。

新聞部顧問の藤村知行先生は「速報新聞が1500号を数えるということは大変素晴らしいことだと思いが、まだまだ通過点だと思っております。これからも出してほしい」と、松田晋哉先生は「日々の積み重ねの結果だと思っております。これからも出し続けてほしい」とコメントを話された。

平成25年度部長 奥村颯太さん

1500号おめでとうございます。夏の甲子園特集キマグレでキマグレの発行部数が増えた僕たちの代から勢いが止まらず、発行のペースが増えていることに驚いています。最近では学校のホームページでキマグレが全て閲覧できるので、キマグレを通して東高生の活躍を楽しみに見えています。キマグレは東高生の活躍を東高生や地域の方など学校外にも伝える大切なツールになっていると思うので、これから頑張ってください。応援しています。

平成27年度まで23年間顧問の鈴木真由美先生

ついこの間1000号の記念号を作ったように思いますが、もう1500号とは本当に早いんですね。いつも100や500などの記念号は気がついたら来てた、という感じでしたが、本当に1枚1枚の積み重ねでできたものだと思います。掲示したキマグレを読んでもらうのが新聞部員のさらなるエネルギーになって、キマグレがどんどん進化してきたように思います。「キマグレ」に、できる時に出版していいかなという気持ちで始めた速報ですが、部員の頑張りでこんなに続き、東高の日常にも溶け込んだ新聞になったことをとてもうれしく思います。

平成26年度部長 松田拓磨さん

1000号からわずか2年間で1500号に到達したことにとっても驚いています。東高新聞部の伝統が後輩たちに受け継がれていると思うと非常にうれしく感じます。これからもスクールメディアとして、読者の立場を考えた新聞作りを心がけてほしいです。

歴代部長・顧問に聞く
キマグレへの想い

東鬼祭キマグレ



東鬼祭期間中に、生徒の活動の様子を紹介するキマグレを発行する。主に団長、団員、1年生の団合唱、2年生の団舞踊、3年生の団公演の紹介、東鬼祭の結果を報告している。部員たちが自分の団を担当して作成してい

冬キマグレ



毎年冬に部員が決めたテーマを元に連載キマグレを発行している。テーマは年によって異なり、今年は「HIKAKU HIGASHI」、昨年は「東高ウィンタースクープ」がテーマだった。1年生が主体となって気なることを調べている。

祝 キマグレ1500号突破 これまでの軌跡をたどる

部活動キマグレ



運動部や文化部の大会結果、イベントなどをキマグレにまとめる。昨年の春季には「運動部キマグレ」と題して、一昨年には「文化部キマグレ」と題してそれぞれ本校の運動部、文化部を紹介するキマグレが発行された。

まとめ

速報新聞キマグレも1500号を超えた。キマグレは発行回数が多い分、月一回の本紙よりも学校全体に親しまれている新聞ではないかと思う。キマグレの主な内容は部活動や学校で起きた出来事だ。生徒密着型を意識した新聞だからこそ、ここまでの部数を発行できたのだろう。新聞部の活動をしていてしばしば思うことがある。それは他の部活、生徒の活躍なしには良い学校新聞は作成できないということだ。

のセンスと文章力を持ち、機材が充実していたとしても新聞にできるような話題がなければ新聞は書くことができない。「運動部の活動は学校に活気を与え、文化部の活動は華やかさを与える」という言葉をある先生がおっしゃっていた。部活動の盛んな学校だからこそ、一段と新聞の内容に深みが出てくるのだと思う。私たちが新聞を書くことができるのは、他の生徒や先生方の支えあってこそのことだと意識していきたい。

(2年 部長・江竜俊喜)